

たいせつな金融取引を、安心できるTFXで。

透明性が魅力の取引所取引 商品改良でさらなる安定性を追求

個人投資家に人気の「くりっく365」。「くりっく株365」。安心して取引できる透明性の高さが最大の魅力となっている。これらの商品を提供するのは、2019年に30周年を迎えた東京金融取引所だ。同社の取り組みや今後の商品展開について、木下信行社長に、フリーアナウンサーの大橋ひろこ氏が聞いた。



東京金融取引所代表取締役社長
木下 信行氏

フリーアナウンサー
大橋 ひろこ氏

マーケットメイク方式や
一本値は取引所取引ならでは

大橋 東京金融取引所は、2019年に設立30周年を迎えました。設立の経緯や取引所の役割について、あらためて伺います。

木下 東京金融取引所の前身である東京金融先物取引所は、金融の自由化・国際化を進めるために設立されました。

設立当初に私が携わったのは金利の自由化です。金融機関が金利の利ザヤを自社で管理するべくヘッジ取引が行われるようになり、当社がその取引所となりました。

金融の国際化の面では、ロンドンにおける自由金利の円預金の取引を行う取引所として利用されるなど、海外の自由な取引を日本で実現する取り組みに貢献しました。

その後、金融危機などの混乱を経て、外国為替取引が自由化されます。この頃に誕生したのがFX（外国為替証拠金取引）です。FXが自然発生的に個人投資家に普及する過程で、当社がセーフハーバー（安全港）としての役割を担うべく誕生したのが取引所取引「くりっく365」でした。

大橋 取引所取引は、投資家にとってどのようなメリットがあるのでしょうか。

木下 一言で言うとうと透明性です。これを実現するために、マーケットメイク方式を採用しています。複数のマーケットメイカーが提示する価格の中から、投資家にとって最良のものをマッチさせる仕組みです。

スワップポイントもシンプルです。店頭取引では受取額よりも支払額のほ

ており、システム開発を進めている段階です。

2020年9月をめぐり
リセット付き商品に切り替え

大橋 人気商品の「くりっく株365」で、商品性の見直しを発表されました。どのような変更なのでしょう。

木下 株価指数証拠金取引「くりっく株365」は、レバレッジ取引が可能で「売り」から取引もできるなど先物の利便性を持つ一方で、「買い」を保有すれば配当金を受け取れるという現物のメリットも享受できる商品です。

他にもさまざまな特長があります

が、そのうちの「ポジションの保有が無期限」という商品性を見直すこととなりました。無期限での保有には、諸刃の剣のような側面があります。マーケットメイカーは、ポジションが「買い」や「売り」に極端に偏った状態が長期化すると、価格の提示が難しくなります。その結果、原資産との価格乖離が生じたり、スプレッドが不安定になったりといった問題が生じてしまいます。

この問題への対応を検討した結果、最長1年程度を決済期限とするリセット付きの商品に切り替えることとしました。2020年9月をめぐり、新しい「くりっく株365」を上場し、現在の「くりっく株365」は2021年3月

を目途に上場廃止となる予定です。

すでにマーケットにはこの情報が織り込まれています。情報を公開する前よりもスプレッドが縮まっているほか、取引高への悪影響も少なく、落ち着いて受け止められています。

大橋 より安定性の高い取引を実現するための変更ですね。その他に新商品の上場など、新たな展開はありますか。

木下 新しい「くりっく株365」と同様のリセット付き取引の横展開に力を入れていきます。目下のところ、金や原油などのETF取引の取り扱いの準備を進めています。新しい「くりっく株365」の上場とタイミングを合わせる方向で調整中です。

新商品についてはその他にも、差金決済となる商品であれば金融商品扱いとなるため、当社での取り扱いの対象として幅広く検討していきます。

大橋 ささまざまな業界でデジタル化が進んでおり、FXでも店頭取引においてはシステムトレードが注目される機会が増えています。取引所がこの分野を手掛けることはありますか。

木下 取引所としては、直接プログラムを提供するのは難しいかもしれません。ただ、店頭FX事業者が当社のプラットフォームを介してツールを提供できる環境は以前からありますし、2019年9月にはシステムトレードにも対応できる環境にグレードアップ済みです。

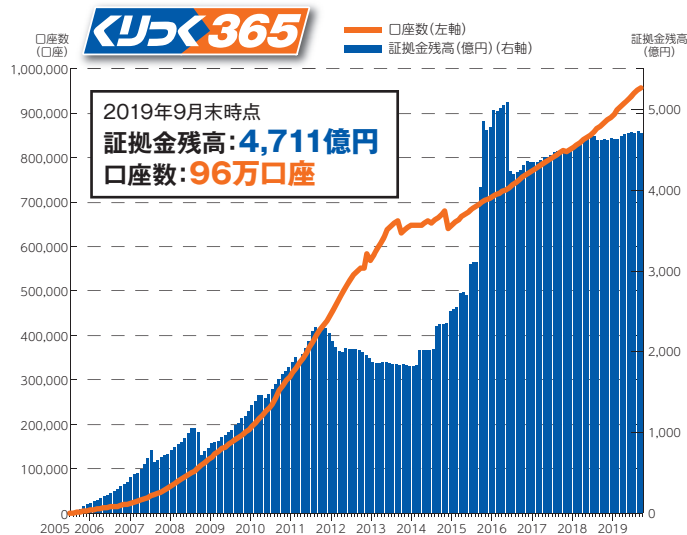
大橋 デジタル化という点では、仮想通貨も無視できない存在になっています。

木下 仮想通貨は今後の状況によって検討の余地はありますが、まだ創世期にあるという印象です。いずれにしても当社の業務上は、仮想通貨自体に存在価値があるかないかといった点は重要ではありません。大切なのは、投資ニーズがあるものを分け隔てなく取り込んでいくこと。そして、投資家が安心して取引できるセーフハーバーであることです。あらゆる商品の取り扱いに對して、この2つをどう両立するかを意識しながら、民間企業らしく柔軟に対応していきたいと考えています。

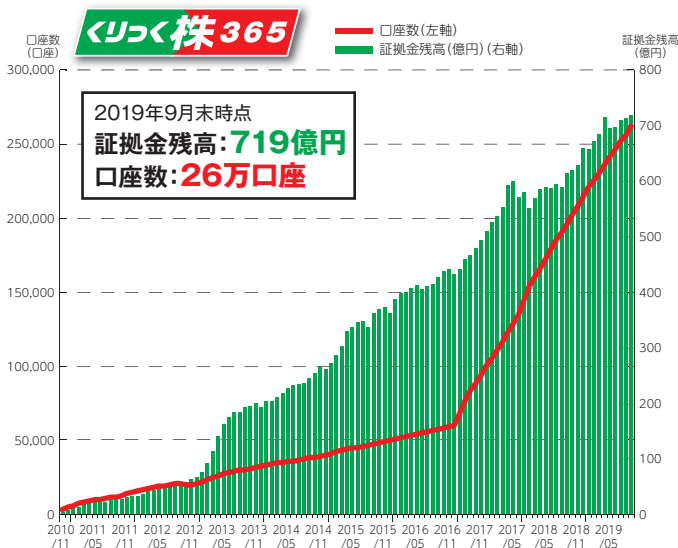
PR

「くりっく365」及び「くりっく株365」は相場の状況等により、差し入れた証拠金以上の損失が発生する可能性があります。取引をされる場合は取扱業者から交付される契約締結前交付書面等の書面の内容を十分理解した上で、ご自身の判断で取引を行ってください。

「くりっく365」の口座数と証拠金残高の推移



「くりっく株365」の口座数と証拠金残高の推移



東京金融取引所
証拠金営業部 マネージャー
宮本 紗知子氏

「くりっく株365」には現物と先物のいいところりをしたような特長があります。大きく4つに分けてご紹介します。

1つ目は、ほぼ24時間、日本の祝日も取引できることです。海外の取引時

くりっく株365

祝日を含むほぼ24時間取引
レバレッジ、配当もあり

口座数が右肩上がりなのは「くりっく株365」も同様です。2010年の上場以来増え続けており、2019年9月末時点で26万口座となりました。

「くりっく株365」が多くの投資家に評価される理由は、そのわかりやすさです。株価指数（インデックス）に投資するため、個別銘柄の業績やニュースをチェックする必要がなく、大きな経済の流れを見て投資判断することができます。

取引できるのは、日経225、NYダウ、ドイツのDAX®、イギリスのFTSE100の4指数。海外の指数であつてもすべて円建てで取引可能な点もわかりやすさにつながっています。

「くりっく株365」には現物と先物のいいところりをしたような特長があります。大きく4つに分けてご紹介します。

1つ目は、ほぼ24時間、日本の祝日も取引できることです。海外の取引時

投資の選択肢を広げてくれる 「くりっく365」「くりっく株365」

取引所 F X

くりっく365

取引所 C F D

くりっく株365

上場以来、口座数・証拠金残高ともに右肩上がりで増え続ける「くりっく365」と「くりっく株365」。人気の秘訣は、取引所取引ならではの透明性の高さと、投資の選択肢を広げてくれる利便性の高さだ。2つの商品が持つ特長について、東京金融取引所の担当者に解説してもらった。

くりっく365

取引所取引だけが実現できる
「安心」「透明」「信頼」

株式投資の経験はあっても、FX外国為替証拠金取引（のこと）はよくわからない、という人は少なくないのではないのでしょうか。

FXの特長というとならず、レバレッジ取引であることが挙げられます。預け入れた証拠金以上の金額の取引ができるため、資金効率の高い取引が可能になります。スワップポイントという通貨間の金利差相当額の授受があるのも特長です。金利が高い国の通貨を「買い」で保有すれば、外貨預金と同様の金利収入が得られます。さらに、株式の現物とは違い、「買い」だけでなく「売り」で入ることもできます。FXでは、上昇・下落どちらの局面でも利益を追求できるのです。

そのような特長を持つFXを当社では、取引所取引「くりっく365」として提供しています。公的な取引所ならではの「安心」「透明」「信頼」の3点。

「安心」の部分としては、取引参加者に対して厳格な資格要件を課しています。「くりっく365」を取り扱うのは、資本金・純資産・自己資本規制比率などの要件を満たした事業者だけです。これに加えて、投資家から預託された証拠金を、東京金融取引所が分別管理の

間中に売買できるほか、日本株の売買ができない祝日のリスクヘッジに利用するといった使い方も可能です。

2つ目は、現物株と同様に配当があること。買いポジションを保有すれば、配当相当額が受け取れます（金利相当額の支払いあり）。売りポジションの場合には受け取りと支払いが逆になりますが、配当相当額・金利相当額ともそれぞれ同額（一本値）としています。

3つ目は、レバレッジ取引であること。取引単位（1枚）は指数の数値×100円で

す。仮に日経225が2万円だった場合、1枚は200万円となります。

現物であれば200万円を用意する必要がありますがあるところを「くりっく株365」なら、5万円程度の証拠金で保有することができます（※2019年9月30日時点）。

4つ目は、「買い」だけ

でなく「売り」からも取引できること。現物株だと収益を狙えるのは株高局面のみです。「くりっく株365」なら、株安局面にも収益を追求することが可能になります。

これらの特長をうま

日経225の配当相当額・金利相当額 実績

2019年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
配当相当額	170	1,525	17,134	0	0	3,207	147	1,557	16,005
金利相当額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1枚取引価格※
2,191,800円必要証拠金※
52,780円

日本企業の決算が
重なる3月と9月に
配当相当額が大きくなる
傾向にあります。

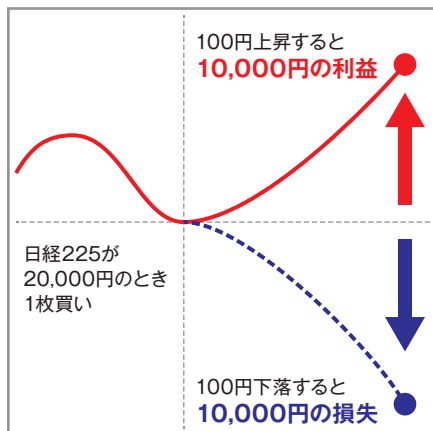
・配当相当額を得る権利の最終日（権利付き最終日）の翌日には、取引価格に「配当落ち」があります。
・当数値は将来を保証するものではありません。金利相当額の支払いが配当相当額の受取りを上回る場合があります。

※2019年9月30日時点

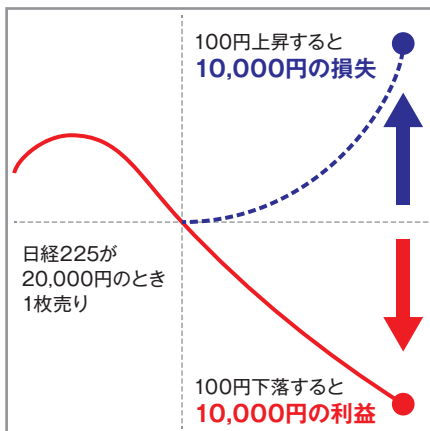
「売り」からもOK！

取引は「買い」だけではなく「売り」からスタートすることも可能。
株高局面でも株安局面でも収益を狙うことができます。

【買い】からスタートした場合



【売り】からスタートした場合



※「配当相当額」「金利相当額」の受払いにご留意ください。

く活用していただければ、収益の追求やリスクヘッジの選択肢を広げていただけたと思います。

その他「くりっく株365」は2020年9月をめどに商品性を見直し、最長1年程度を決済期限として生まれ変わります。この見直しにより、スプレッドが縮小するなど、より利便性を増して取引いただけるようになると考えています。詳しくは「くりっく株365」のHPをご覧ください。

くりっく株365 取引参加者

岩井コスモ証券	KOYO証券
インヴァスト証券	日産証券
SBI証券	ひまわり証券
岡三オンライン証券	フジトミ
岡安商事	マネックス証券
カネツFX証券	マネースクエア
カブドットコム証券	豊商事

※2019年9月末日現在

【くりっく株365入門動画】

Bコミさんが解説！
「はじめての株価指数と
その活用法」

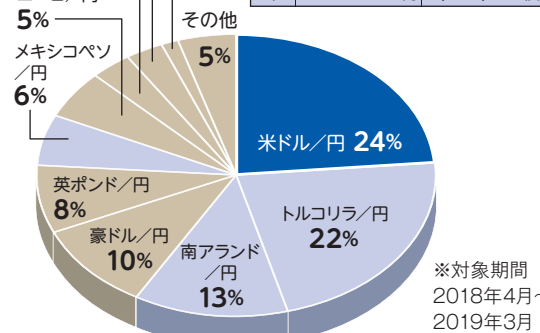


人気は米ドル/円&高金利通貨

米ドル/円は不動の人気ですが、トルコリラ/円・南アフリカランド/円・メキシコペソ/円といった高金利通貨がランキングの上位に入っているのは「くりっく365」ならではの。スワップポイント目的で長期保有したい場合などに、当社の信頼性の高さが評価されていると考えられます。

●2018年度「くりっく365」取引通貨ランキング

順位	取引通貨ペア	合計
1位	米ドル/円	7,352,304枚
2位	トルコリラ/円	6,854,261枚
3位	南アランド/円	3,906,824枚
4位	豪ドル/円	3,138,172枚
5位	英ポンド/円	2,339,318枚
6位	メキシコペソ/円	1,874,953枚

東京金融取引所
証拠金営業部 マネージャー
村田 美穂氏

うえ、全額保管する仕組みも安心材料となっています。

「透明」は、価格提供のメカニズムで実現しています。マーケットメイク方式を採用し、世界有数の金融機関6社が提示するレートの中から投資家に最も有利なレートを提供しています。

スワップポイントの受取額と支払額が同額（一本値）であるのも特長です。店頭FX会社の多くが受取額よりも支払額を大きく設定していますが、「く

りっく365」では公正性を重視しています。

「信頼」は、なんと言っても日本で唯一の公的な取引所FXであることです。「くりっく365」の口座数は、2019年9月末時点で96万口座。2005年の上場以来、右肩上がりが増え続けています。

くりっく365 取引参加者

岩井コスモ証券	GMOクリック証券
インヴァスト証券	住信SBIネット銀行
FXブロードネット	大和証券
岡三オンライン証券	立花証券
岡安商事	日産証券
外為オンライン	フジトミ
カネツFX証券	みずほ証券
カブドットコム証券	豊商事

※2019年9月末日現在

【くりっく365入門動画】

小次郎講師が解説！
「はじめての為替投資と活用法
～くりっく365入門編」

